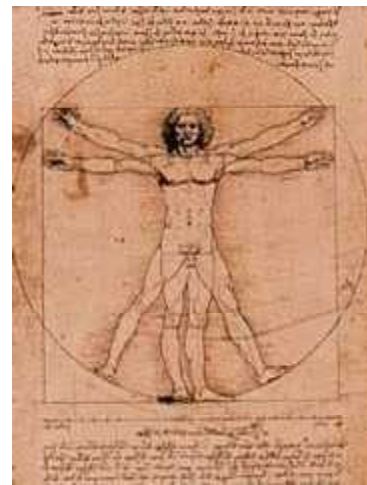


夏は終わらない その6

「レオナルド・ダ・ビンチ」をご存知ですか。

イタリアのルネサンス期を代表する芸術家。フルネームはレオナルド・デイ・セル・ピエーロ・ダ・ヴィンチ (Leonardo di ser Piero da Vinci) で、音楽、建築、数学、幾何学、解剖学、生理学、動植物学、天文学、気象学、地質学、地理学、物理学、光学、力学、土木工学など様々な分野に顕著な業績と手稿を残した。容貌にも優れ美男子であったとか。



レオナルドダヴィンチ

モナリザ

この天才の姿勢から学び取るべきものをここに書き出してみよう。

- ・絶えず好奇心を持つこと
- ・知識自体を探求すること
- ・子供らしい驚嘆する心を保有すること
- ・自分の目で見ること
- ・細部から始めること
- ・見えざるものを見ること
- ・不思議に思うところを純粋な興味から探ること
- ・横道にそれること
- ・事実を伝えること
- ・先に延ばすこと
- ・完璧を良しとしないこと

- ・目で考えること
- ・縦割りを避けること
- ・空想にふけること
- ・支援者のためにではなく自分のために創造すること
- ・協働すること
- ・目録を作ること
- ・メモを取ること
- ・未知なるものに目を向けること

このことは、今の学力の三要素を網羅していると考えられるとともに、大学に入学してからの研究生活の視点においても十分なる能力を育成する視点としても通用するものである。

効率や、対費用効果や、欲望に左右される資本主義や、それらに付随する様々な事柄の対極にある考え方ともいえる。

まさしく、その志と存在価値においての東京を中心とする世界にはない、地域と時空を超えた高邁なる精神に貫かれていつつも、ここいわきにおいても十分に養うことができる学びの原点であるといっても過言ではない。

最後の晩餐で、私は何を語るのかを考えつつ、これからの学びを根本から考えていかなければならないと感じているところです。



